

受付番号第3号、井上栄一君の一般質問を許します。登壇願います。

6 番 井 上 それでは、議長の許可を頂きましたので、一般質問を行わせていただきます。受付番号第3号、質問議員、第6番 井上栄一。件名。新松田駅周辺整備事業、消防松田分署建て替え土地購入事業の進捗状況について。

要旨。これから来年度予算編成に向け、各種事業の方向性及び予算化に向けての作業が進められていくと思われま。そこで、次の項目についてお伺いをいたします。

1、新松田駅周辺整備事業は、準備組合設立を目指し地権者検討会で事業説明・検討が行われていますが、駅周辺整備・再開発事業を核とした町の未来予想図、町のにぎわいを取り戻す計画が見えていません。新松田駅周辺整備事業に対する町の本気度を伺います。

2、消防松田分署建て替え土地購入事業の進捗状況は。

以上質問します。よろしくお願ひします。

町 長 井上議員の御質問に順次お答えを申し上げます。

まず、平成31年3月に策定いたしました第6次総合計画における基本構想・基本計画の内容につきましては、平成30年3月に策定した松田町自治基本条例において議決事項となり、議会の皆様にお認め頂いた上、各種事業を進めているところでもございます。その中でも新松田駅周辺整備事業については、約11年前の平成23年3月に策定いたしました第5次総合計画及び第6次総合計画においても、駅や道路利用者の安全・安心の確保や足柄上地域の玄関口としてふさわしい交通結節点としての機能、商業の充実はもとより、中心市街地の活性化による町の発展には欠かせない若年層の定住促進や交流人口の増加を目的として、重要かつ優先度の高い事業として位置づけられております。

私が就任した後、直ちに本事業が進んでこなかった状況の把握や課題の整理、それらの解決策の検討を重ね、町民や議会の皆様の御協力により、ようやく平成31年3月に新松田駅周辺整備基本構想・基本計画の策定をすることができませんでした。基本構想・基本計画に基づく駅周辺地域におけるまちづくりを実現するには、様々な課題をいつまでに解決していくのかを定めて事業を推進する必

要があるため、いつまでに何をやるといった事業全体の予定をお示しいたしました。

当初の予定より約1年程度遅れていますが、各地権者の皆様や公共交通事業者様など、関係者の御理解を賜り、令和4年6月に準備組合設立に向けた地権者検討会を立ち上げることができました。今後は、再開発準備組合、本組合の手順で事業を進めることとなり、本組合が設立される予定の令和5年度末にはディベロッパー等の事業協力者が決まり、この時点から駅周辺整備における町のにぎわいの全容が見え始めることとなります。町といたしましては、商業スペースに魅力ある商店が誘致され、住宅スペースには新たに転居される多くの方々に入居していただきたいと望んでおりますので、今後、事業進捗によって町のにぎわいに寄与する実施計画が策定される予定でございます。

町の本気度についての御質問でございますが、第6次総合計画が議決事項となり、議会で承認された重要かつ優先度が高い本事業の推進に必要な予算について、これまでスケジュールに合わせて計上し、議決後に進めてきた事業であることは御承知のことと存じます。これまで地権者や公共交通事業者はもとより、町民や商工業者など、多くの関係者の皆様に御協力を賜りながら日々少しずつ前に進めている事業でございますので、これまでどおり事業の完遂に向け一丸となって取り組んでまいり所存でございます。多くの町民が望み、願う大切な事業でございますので、予定どおり事業を進捗させていくためにも、引き続き議会の皆様方の御理解、御協力をお願いしたいと存じます。

続いて、2つ目の御質問にお答えを申し上げます。小田原市消防本部では、一般財団法人消防防災科学センターの調査結果に基づき、松田分署再整備用地について、松田分署の出動区域である大井町や開成町、松田町の現場到着時間の短縮など、運用効果の高い場所を選定することが効果的であることから、適正配置のエリア内で取得可能な用地の選定を松田町または大井町で進めていくこととしています。

本町においても令和4年第1回松田町議会定例会において、令和4年度当初予算の用地取得費1億5,000万、物件損失補償費5,000万を計上させていただき、

議会の皆様方にもお認め頂きましたので、用地取得に向け、準備を行っているところでございます。

今後は、本年10月に開催される2市5町の首長が出席する令和4年度消防事務調整会議にて、松田町が提案する候補地について、小田原市消防本部から松田分署建て替え候補地として報告があり、候補地が正式に決まる予定となっております。町は、その結果を受け、候補地の所有者に対し、本格的に用地交渉や用地取得に伴う様々な事務手続に入る予定となっております。以上でございます。

6 番 井 上 それではですね、再質問に入らせていただきます。まず、1点目は大分ボリュームがあるということで、2点目のですね、消防分署、松田分署の建て替え用地についてのですね、再質問をさせていただきたいと思います。

今のですね、町長のお答えの中でですね、既に10月に開催される消防事務調整会議の中で松田町が提案をするという回答を頂きました。そののですね、提案される候補地については、もしですね、ここで発表ができる部分であれば、一番必要な内容としては、今の答弁の中にもありましたけれども、現場到着時間の短縮など、運用効果の高い場所ということであると思います。よってですね、それで10月に開催される会議で示される候補地ということであれば、もう既にですね、どの地域の候補地かということが固まっているという中でですね、運用効果の高い場所を選ぶというところでですね、どの地域か、また面積、次いで現在のですね、土地の用途ですね、農地であるとか雑種地であるとか、そういったものについて示すことができる範囲の中でですね、お答えを頂きたいと思います。

総 務 課 長 ただいまの井上議員の御質問にお答えさせていただきます。まず初めに、消防防災科学センターで言われている適正配置のエリアについて、この候補地について、その該当がどうなるかという話ですが、この適正配置のエリア内で…（「その該当はどうなんだよ。」の声あり）はい、うちのほうは選定をさせていただいております。ただ、それぞれ候補地につきましては、それ以上、ごめんなさい、面積であつたり用途地域、地目については、今後の10月の事務調整

会議までですね、ちょっと公表のほうは控えさせていただきたいと存じます。
以上です。

6 番 井 上 控えさせていただきたいということですが、答弁書の中にもありますけれども、事業費として2億円ですよ。ですので、小田原市か、小田原市消防本部か、というところにですね、報告をする前にですね、当然こういった高額な予算を消費する予定地として議会に示していただくことができるかどうか、町長のお考えをお伺いをいたします。

町 長 予算の話は承知しております。しかし、御存じのように土地の交渉の関係もありますので、そこがまたひとり歩きされるのも、なかなかやっぱり所有者の方々もそれについてはちょっと慎重に進めてさせていただきたいという、最初に決まる前も含めてですね。

そこで、今ここで話ができることとしてはですね、先ほど言ったセンターのほうで取りまとめた話としてですね、今の現時点で、例えばこの辺りが一番いいと言われているのが、足柄大橋の根元の辺りです。あそこの辺りが一番いいと言われてます。そこから半径1キロぐらいが望ましいというふうな格好の中でおっしゃられてますので、比較的に松田の町の中で言うと随分と近くになるかなとは思ってはおりますが、状況によっては大井に持っていかれちゃう可能性もありますので、その辺はそういうふうにならないような格好での場所の選定と。あくまでも半径1キロメートルというのは望ましいということですから、それを若干超えてもですね、いいのではなかろうかと言って事務方同士、話をしております。

案としては1か所じゃありません。複数案として提出する予定をしておりますので、そこで、例えば、今、今日ここですね、3つ、話をこことこことこですと言ったときに、最終的に決まったところと決まらなかったところが出てきたときに、決まらなかった方に対してもその情報を、全てが公開する形になるということもありますから、今のところ地主さんのほうからは、そういったこともちょっと控えてさせていただきたいというふうに、決まったら言ってくださいというふうに言われてますので、今の現状の報告をさせていただきます。以

上です。

6 番 井 上 あのですね、所有者が特定されるような情報までは求めていません。今、町長のほうで言われましたように、足柄大橋のたもと、半径1キロということの部分であればですね、それを町が考えていると。先ほど町長はその消防防災科学センターの範囲の話をされたんですけど、じゃあ町もその辺を考えているのかについてですね、お答えができればしていただきたいと思います。

また、もう1点確認ですけれども、10月ですね、消防事務調整会議に対して、今の町長の答弁の中からは、もしかしたら大井町もですね、そういった提案をされるのかということもちょっと今の回答の中でですね、そういったこともあるのかなというふうに思いましたので、今のところは松田町だけが提案をするのか、それとも大井町も提案をされる可能性もあるのか、その2点についてお伺いをします。

町 長 先ほどの質問の継続なので私のほうからお話しします。まず、そうですね、センターのほうから示されていることは、基本原則としてそこは守っていかなくちゃいけない。というのが、松田町だけの分署じゃないので、実際土地が決まるのは当然松田町に決めてもらいたいんですけど、建物自体は1市5町で分担してお金を払う場所ですから、最終的には皆さんで決めるといったことですから、原則はそれを原則として。ただ、先ほどちょっとその後に質問をもらったことにつながりますけども、やはり最終的に松田町で交渉が決裂し、決まらなかった場合には、大井町さんがその後に控えているというようなことで、そういうふうに話、話というか、そういうふうな段取りで、今手順で来ているということだけお伝えしておきます。

6 番 井 上 ありがとうございます。そういったことで、2点目のですね、松田消防分署の建て替え土地購入事業の進捗状況についてはですね、以上とさせていただきます。

新松田駅周辺整備事業のですね、関係の再質問に移りたいと思いますので、よろしく願いをいたします。まず、1つ目の再質問としてですね、この駅周辺整備事業・再開発事業というのは、計画はありましたけれども、再開発のほ

うではですね、JR北口のですね、町有地を核とした再開発事業が計画されましたが、頓挫してですね、その計画はなくなったということで、新松田駅周辺整備事業及びその周辺の再開発事業というのは、町にとってやっぱり重大事業であるというふうに思います。先ほどの町長の答弁の中にも、検討会の発足をして住民の意識も高まりつつあるという回答もありました。

そこでですね、来年度予算が年内にですね、編成作業というものに入られるというふうに思います。来年度、再開発準備組合が立ち上がり、来年度末でですね、本組合が立ち上がるという町長の答弁もありました。総合計画の中でですね、答弁にありましたように、安全性・利便性の向上、中心市街地の活性化、魅力の創出というですね、テーマが上げられています。また、1年前にはですね、やはり駅周辺の安全対策が重要だと。総合計画のテーマに加えてですね、県西地区の北の玄関としての整備が、これは松田町のやはり一つの責任の部分で整備をしていかなければいけないだろうというような町長の発言もあったように記憶しています。

この再開発事業・新松田駅の周辺整備事業、これは町にとって史上初めての事業だというふうに考えていきますと、駅前広場の安全対策、新松田駅南北自由通路の設置、これはやはり重点、重要な事業であります。それ以外にですね、再開発事業をやる必然性・重要性というものが、町が様々な計画をやらなければいけないという局面の中、答弁の中ではですね、ある程度の状況が進んだ段階でですね、今後の事業進捗によって町のにぎわいに寄与する実施計画が策定をされる予定ですよというふうな答弁もありましたが、もう権利者の、地権者等ですね、検討会が立ち上がって、やはり具体的な方向性が見えてきているというところで、町民に対してはですね、その必然性・重要性というものを町はまだ説明をされていないのではないかなというふうに私としては感じています。

そこで、この再質問等の前にですね、基本的な質問でですね、この、なぜ新松田駅周辺整備事業と再開発事業をやるのかについて、先ほどの答弁なり総合計画、新松田駅周辺の基本計画、それ以外にですね、前述の事項以外で町長の

考えがですね、こういった点も進めていきたいんだというようなことがあればですね、こういった点があるのか、お伺いをいたします。

町 長 御質問ありがとうございます。私としてはですね、就任して9年たつわけなんですけども、当時はですね、駅を使ってなかったの、そんなにその駅の重要性は、はっきり言ってですね、そんなに感じてなかったところです。ただ、この職になって、なればなるほどですけども、やはり先ほど言ったように課題があるといった部分で考えたときに、まずは財政的な話とかもありましたけどもね、ただ、この事業は、松田町だけのものではないというふうな、いろんな地域の方々からお話を聞けば聞くほど松田町だけじゃなく、やっぱり1市5町が使ってきた昔からの交通の結節点だというようなことの歴史を学べば学ぶほど、ここの駅がしっかりと地域の方々を使い勝手がよくなればなるほど全体がよくなるんだという思いは、正直そこから芽生えております。

町の中だけで考えますと、やっぱり安全な駅の周辺の利活用というようなことがありました。ただ、それだけではですね、結局そのロータリーを造るとか、車がただぐるっと回って安全だったらそれでいいみたいな短絡的な話だけになってしまって、そこに魅力のある駅周辺整備にはならない、つながらないというふうな、ただもう通過交通といいましょうかね、ただ集まりやすく便利な駅前周辺になってしまえば、町がそれだけ投資をした分がよろしくない。よろしくないといいましょうかね、回収できないのではなかろうかという思いもあって、ここにはやっぱり定住、また人口増加策も含めながら、にぎわいのある地域づくりをするために、ただ安全な駅周辺整備だけではなくて魅力のある町、駅周辺整備をしなければいけないというような観点はあります。

いずれにしろ、その私の考え方はですね、やはり町民の方々の御意見とか何とかというものが基になっておりますので、今後もですね、たしか予定では10月の2日だった予定になっていきますけど、多分ホームページにも載せてあったと思うんですけども、町民の方々からですね、いろんな御意見を頂きたいということで、ワークショップを予定をさせていただいております。こんなお店が欲しいとか、こうしてほしいとかいったところから、今後ですね、検討会も含

めながら進めていくというような手順になってまいりますので、それはもう本当に町民の方の御意見を頂きながら我々がうまく調整しながら今後も進めていきたいというふうに考えています。以上です。

6 番 井 上 ありがとうございます。北の玄関、交通の結節点の整備というのがやはり重要だという回答かと思えます。また、10月2日にですね、ワークショップをやるということで、これは1回だけで町民の希望なり考え方を捉えていくことができるのかなということもですね、ありますが、ぜひですね、その10月2日のワークショップをですね、初回としてですね、何回かやっていただかないとなかなか町民の希望なり、町民がどのような駅周辺整備なりまちづくりを考えているのかということが捉えにくいのかなというふうに思いますので、何回かの継続のワークショップを希望をしたいと思います。

次にですね、1年ぐらい前ですね、やはりその新松田の駅周辺整備事業の関係で、1年前で選挙の時期もあつたんですけれども、町長のほうはいろいろですね、発言をされています。一番その中で記憶に残るのは、149億円の事業でも町は借金地獄にはならないという発言をされていたと思います。事業費等の中でもですね、町のほうの一般財源とか基金、起債の負担ではですね、総額で15億6,000万円でできますよというふうな話をされていました。それはですね、全体事業費、149億円の全体事業費の中で49億円の部分の話でありまして、100億円の集約施設整備事業というものがですね、大分大きな規模だということです。それに対してもですね、町長は実現可能な額、規模でやればよいという発言があつた中でございます。

現在ですね、先ほど町長答弁の中で、来年度の末ぐらいにはですね、ディベロッパー等が決定をしていくだろうという答弁がありました。現在はですね、この100億円程度の集約施設、再開発事業に対するですね、ディベロッパー等の希望者は手を挙げていない現状です。また、担当課のほうのお話ではですね、2分の1程度の額であれば手を挙げるディベロッパーはいるらしいというふうな話も聞いています。

ですが、まちづくりを考える上で、総合計画における一つのテーマとしては、

持続的な町の発展、将来人口、町のにぎわいといったものが総合計画の中で挙げられています。この松田町の将来像を実現するための一つの大きな契機となります。駅周辺整備事業や再開発事業、これにはですね、やはりある程度集約施設、再開発ビルの規模を踏まえたですね、その中に入居される世帯数や住民数といったものが、やはり面積要件、ビルの規模、ビルの棟数等の中で、やはり町の考えるイメージを町民に説明していかなければいけないのではないかと。

そして、先ほど買物困難、前者の一般質問等の中では幾つかの解決策、くるまつくん等の解決策もありましたが、やはりここで再開発ビルの中にですね、買物困難を解消するためのスーパーマーケット等の導入を想定する事業規模というのが、当然これから何年かかるか、計画自体は少しここで組合設立までですね、2年程度の遅れが出てきていますが、再開発事業全体ですね、完成まででは数年以上かかるというふうに思います。そういった先を見越したですね、事業規模、内容でなければならぬというふうに思います。

町のほうの再開発事業の説明等の中ではですね、事業規模はディベロッパーさんと再開発の組合、本組合で任せますと、町はそれに対して指導、助言をしますという説明があるように思います。こういった大規模事業の中で、やはり組合任せではなく、やはり町が主導的に様々な再開発ビルの規模やですね、内容をですね、やって、やはり100億円の集約施設という最初の計画を掲げてあるのであれば、やはりそれに向けたですね、町の姿勢なりを示すべきだと考えますが、町長はどう考えるのか、回答をお願いいたします。

町長　　まず御質問にありました1年前、大変だったですね、暑い中ね。本当に、いろんなことを言われてしまってですね。この149億の話と、今49億の話が出たとおりですね、49億について、駅の基金条例をつくるときに、大変皆さん方に御議論頂いてお認めを頂きながら今基金をためているということ存じますと、松田町が借金地獄になるのであれば、基金条例が通ってないと思うんですよ。そこの辺りはちゃんと整理整頓してお話をさせていただかないと、町民の人たちがまどっちゃう。だから今回の質問に「本気度」なんていう質問が出てくるわけですよ。議会と我々と一緒になって今本気度を持ってやっているということ

は、本当は答弁の中で言いたかったんですけどもね、非常にその辺は多分関係者の方々もどういうふうに、多分首を傾げられているんじゃないかと思うぐらいなことです。いずれにしろ松田町が借金地獄になるようなことを議会の皆様方と一緒に合意した記憶は全くございません。これだけは断定しておきます。

100億円の民間の投資ということは、基本構想・基本計画の中で、何度となくうちの担当課からも話をされてますけども、あの時点での基本構想・基本計画というようなことの中から、今後実質やっていくディベロッパーさんの方々と組合との折り合いの中で、今後細かいところの話をしていくに当たって、それは100億じゃなく80億のこともあれば、それは状況によっては、そんな大きい話は聞いてませんが、それ以上の額を提示する人たちもいるのかも分かりません。ただ、今現状は、その状況ではないというような報告は受けておるところでございますので、やはりこの実現可能の中で、やはり町民の方々の今の課題だとか、そういったものを解決しつつあるような歩調を合わせて一緒に進んでいただくようなディベロッパーさんが決まるとですね、最終的には事業規模等々も決まっていくのかなと。

それで、これまでは町が主導を、これまでというか、これからも当然主導…主導といいましょうかね、一緒には当然やっていきますけども、何せベースになるものが何もなかった。これを民間の方々にやってもらうということ自体が、まず考え方の中には私自身もありませんでした。なので、地元の方々も町がそれだけやる気があるんなら、よし分かったというふうに今現状なっているのかなと思っておりますので、今後も今までと同じような思いの中で、継続的に関係者の皆様方、またこれからは、先ほど申し上げたように町民の方々の意見を含めながら一緒につくり上げていくというようなことの中でやっていく所存でありますので、町がやっぱりですね、公共といいましょうかね、公務員という言い方をしたほういいのかな。やっぱり主導でやり過ぎちゃうと、やっぱりもう、何かな、先ほどビジネスの話がありましたけども、そういったものにね、うまく乗っからないところもありますから、これからは、やっぱり民間の方々の意見を集約しつつ事務的に取りまとめながら、町の役割、権利者

の方々の役割、ディベロッパー、皆さん方の役割をお互いに尊重しつつこの事業を丁寧にやっぴり進めていく必要があるというふうに考えていますので、そのように御理解頂きたいというふうに考えています。以上です。

6 番 井 上 ありがとうございます。借金地獄にならないというのはですね、当然議会としても理解をしています。基金繰入れ等をやってですね、それらを含めても10年ぐらいの計画の中で町負担は15億6,000万円だと、一般財源等の額でですね。ですので、それを10年で割るのか、何年で割るのかなんですけれども、例えば10年で割ってもですね、1億5,000万ぐらいということで、そこは理解をしています。

それに関連をしてですね、質問ということで、町がですね、先ほど主導でやり過ぎないということもありましたが、なかなか松田町の今の地権者の状況を見るとですね、なかなか積極的に、高齢化の関係もあります。今の地権者、権利者の方たちはですね、高齢化をしているというそういった中で、やはり町がある程度ですね、計画の推進に際しての助言、指導というのはですね、当然やっていただけるんですけども、やはり財源的なですね、財政的な支援というものが必要になってくるのではないかなというふうに思います。

以前ですね、計画書、新松田駅のほうの計画書の中にあつたパースのような部分、パースの図ですね、のような規模での駅前の周辺整備・再開発事業ということで考えるというふうに皆さん理解をしていると思いますが、例えばですね、財政的な支援としては、最初ですね、JR北口の駅前の駐車場を核とした再開発事業の中では、たしかですね、再開発ビルの中に図書館を…図書館なり町の分庁舎を設置をするというふうな計画があつたというふうに思っています。また、私どもがですね、様々な首都圏の再開発事業の勉強等をしている中で、県内の川崎とかですね、あと首都圏の再開発ビルを見ますと、再開発ビルですね、ワンフロアなりツーフロアにはですね、会議室とか集会施設、子育て支援施設、分庁舎、そういったものが設置をされているというふうなところを見えています。

再開発組合というと、やはり自分の持っている土地、財産をですね、やはり

一旦この再開発事業の中に床の変換というふうな形の中で預けてしまうということで、そういった負担が生じるのかね、今のところ将来的にですね、大分そのマンション等の入居者なりテナント等の店舗が大変入ってきて、大分そういった財産価値が上がったというような状況になればいいんですけども、当然その逆もですね、考えられるわけです。そうした場合にですね、やはり町が支援をするという考え方の中で、一例としてですけども、再開発ビルに町の公共施設部分を町の財政負担の中で設ける。また、先ほどですね、買物困難者の解消ということで、再開発ビルの中にスーパーマーケット等ですね、テナントの床分を町が確保し提供すると、そういったような町の財政負担が私は必要ではないかなというふうに思います。にぎわいに関する計画は、これから策定をするという答弁もありましたが、今のですね、町長のお考えは、こういった町の財政負担、支援に対してどう考えるのか、お伺いをいたします。

町長 まず、前提をちゃんとお話しします。町が主導でやらないということは言っていない。やり過ぎないで、やはり民間の方々の御意見を尊重しつつ、やはり役割分担しながらやっていかなきゃいけないのではなかろうかという話をしているので、そこだけをまず最初に。

町の機能をですね、集約しながらそのビルに入れていくということは、どの部分をどうとかというのは、これからやっぱり調整しつつあると思いますけども、やはり、今、町民の方々の利便性を一番に考えると、やはりちょっとした支所みたいなものがあったりとかですね、今、井上さんが言われたように図書館があったりとかというところと本当にいいですね。もちろん、映画館があたりとかって、子供たちは何かいろいろ言ってくるんじゃないでしょうかね、多分。買物するところが欲しいとか、多分、まさかボーリング場まで欲しいと言われても困ったりするところもあるかも分かりません。ただ、これもいろいろと町民の方々、子供たちも遊び場が欲しいとかっていうのをよく言っていますので、そこも全体的に今後そういった夢の話がどうやったら実現していくのかというのも、町も一緒になってやっていく中で、町がじゃあこの分は負担しましょう、それでやっていく。その買物の話も出ましたけど、この辺りは、これからしっ

かりと我々も責任を持って組合の方々、もしくは、じゃあ場所によっては、立場によっては組合員という形になることにもなるかも分かりませんね、土地を持っていますので。その辺、だから一緒にとにかくつくっていく、皆さんの夢を形にしていく、その夢に近づけていくというような格好で町が携わっていただけらな、やっていけるようにしっかりとやっていきたいというふうに考えます。以上です。

6 番 井 上 ありがとうございます。これから検討をされていくということで、なるべく夢を実現をしていくような方向の中で、もちろん財政的な検討というものは当然必要になってくるとは思いますが、そういった部分であればですね、やはり町史上初の再開発事業になるというふうに考えますので、先ほどのワークショップ等を踏まえてですね、それも、ですからやはり本当に複数回やっていかないとなかなか様々な町民の希望を取り入れた中で検討なりを進めていかなければいけないのかなというふうに考えますので、それらについての検討をですね、よろしく願いをしていきたいというふうに思います。

次にですね、今、再開発の事業の中に公共施設なりですね、テナントの不足というふうなことも質問をさせていただきましたが、これらの中でですね、前回ですか、私の一般質問の中で、じゃあ道路整備、この駅周辺整備事業・再開発事業に関連をした道路整備はどうかということで質問をさせていただきました。それについてもですね、検討をされるということですが、来年度の再開発準備組合の設立というスケジュールで事業が進んでくる中で、今、これからですね、予算編成に入ろうかというふうに思われますが、ぜひ来年度におきまして、様々な計画事業というものを検討していかないと、来年度末の本組合設立という本当に時間がない中で、町民の理解を得た駅周辺整備事業・再開発事業にならないのではないかなというふうに思います。

例えば、にぎわいを取り戻す施策としてですね、町民に示すべき計画をですね、私なりに考えた中で、駅周辺とか町全体のための計画が必要だというふうに思います。駅周辺だけでなくですね、やはり町に及ぼす影響の中で、例えば、駅周辺でのバスや自家用車の回遊のためのですね、道路整備計画というのを、

やはりこれは早急に示す必要があるかというふうにも思います。また、先ほどですね、にぎわいを取り戻すための計画は予定をされているということですが、これもですね、やはり振興計画、商工振興の計画ということで、再開発組合、本組合設立の前にですね、やはり町民に対しても示しておくべきだというふうに考えます。

駅の利便性、これはですね、松田町の住民だけでなくですね、乗降客と、乗降客の中に含まれますが、やはりその新松田、松田駅を経由する観光客が今後ですね、コロナ等の回復からですね、多くなってくるというふうなところの中で、駅周辺ですね、様々な交通規制が今あります。大変ですね、松田町に初めて来る方たちは、一方通行の規制等が難しいと、かなりその通行規制に違反をしてしまう方もですね、時々見受けられています。そういった部分、交通規制計画をですね、やはりその回遊、バスや自家用車の回遊を示す計画の中にもですね、含めた交通規制の計画案等をですね、議会、住民に示し、駅周辺整備事業や駅周辺の各種計画に理解を得ることが必要だと思います。これらはですね、やはりその本組合設立前の段階の中でこういう計画がありますと、実施時期については、先ほど、ディベロッパーの決定等も踏まえた、そういったバランスの中で、スケジュールの中で決まってくるというふうに考えますが、そういったものをですね、来年度予算の中に取り込んで示していくというふうな考えがあるかどうか、お伺いをいたします。

参事兼まちづくり課長

御質問ありがとうございます。まずですね、今御質問の中でありました駅周辺におけるバス、自家用車、また利用者の方々に対する交通ということでございます。前回もお答えさせていただきましたとおり、駅前の広場を造るだけでは、安全性を保てるわけではありません。御指摘のとおりその周辺の道路も検討の中に入れながら、来年度以降、駅の基本設計を、駅前広場の基本設計をやっております、今ですね、来年度もそのまま引き続きそれをやる予定です。そして、その中では警察協議ということが入ってまいります。すると、警察では、周辺道路についてどう考えているのかということを確認に指摘されるのは、もう予想がつく範囲でございます。町といたしましても、周辺町道の整備につい

て、今後決定を次第、順次一般の方に御説明をさせていただきながら、決定というよりもプロセスを踏みながら、段階を踏んで皆様に御説明をさせていただいて、将来はこういうふうにしていきたいということをまず皆様にはお知らせしたいと思っています。

それから、最後のほうにありました交通規制と回遊性ということでございます。交通規制につきましては、利便性の向上だけ、利便性の向上を上げたいから交通規制を解除するというのではないと思っています。それはですね、規制をした理由があったはずなんです。例えば、学童の通学時間帯に多くの車が通るのは危険だよと、そういったことがあったから多分この道路は規制をされたんじゃないかというように考えています。ということは、駅の周りを整備したからといって、じゃあ幅が広がったからどんどんどんどん車を通せばいいじゃないかと、そういうことでもないと考えます。当然交差点というのはあればあただけ危ない、歩道があっても、じゃあ速度が上がれば安全なのかと、いろんなこともありますので、これは警察と、それから多分大きな問題は、通学路に関する規制だと思うんですね、ほとんどの例が、7級が多いので、多分通学・通勤の方々のためだと考えています。その当時、どうしてそれをやったのか、そこまで遡りながら、保護者の皆様と考えながら一緒に学校と考えていきたいと思えます。以上です。

6 番 井 上 回答ありがとうございます。そうですね、ただですね、そういった交通規制が始まった時点はどういうふうな原因で、理由で行われたのかということもありますが、今回ここです、先ほど言いました回遊性を含めた中での道路整備計画も検討されているということであればですね、大分その辺の道幅とかです、道路幅員とか、そういった、あとカーブとかですね、そういったところの状況は当然変わってくると。そういった中で、じゃあ新しい交通整備計画、交通規制計画、交通規制はどういうふうにあるべきかというところをですね、やはり古くからの考え方もありますが、こういう新しい道路に対応したそういった交通規制をですね、やはり議会と町民に示して、それぞれのそういった判断を得ていただくことが必要なのかなというふうに思います。

最後になりますが、この再開発事業の中でですね、様々な公共施設とか利便性を含めた中で、駐車場設備、先ほどの基本計画の中のパスの中で未確認駐車場が示されています。それについてはどうなのかということで、事業規模に応じた再開発事業のやはりディベロッパーさんがどれだけ投資をしていただけるのか。そういったものによってですね、その辺というのは変わってくるというふうなことを担当課からもお聞きしていますが、やはり町のにぎわいを取り戻すための政策でですね、やはり買物困難者のためにそういった再開発ビルのフロアを使うなり、子育て支援施設というものを中に設けるなり、様々な観点からですね、いきます。あとは、通勤者とかJRへの乗換え者とかですね、あと観光客でもですね、やはりその駐車場をですね、利用するということが本当ににぎわいを取り戻すための計画の中には必要なのではないかなというふうに思います。

そこで、担当課のほうの考え方として、じゃあ駐車場整備というのは、どういったメリット・デメリット。当然造ればですね、お金がかかります。駐車場というのは、やはりその設備の維持費も大変かかるというふうにも聞いています。そういったものについてのお考えをお聞きをしたいと思います。

参事兼まちづくり課長

御質問ありがとうございます。おっしゃるとおりでして、これから集約施設の中にテナントとして入る、例えば、先ほどから町長も申しますとおり、公共施設がその中に誘致されると、そういった場合、また住宅系の建物ができる。そういった中では、その施設に応じた駐車場の数というものが確実に必要になってまいります。議員おっしゃるとおり、経済性も考えなきゃいけない。ディベロッパーさんがいつも満車で回転のいいように経営できれば駐車場としてもいいんでしょうけども、駅利用者の方がいつ使うが分からない駅利用者のために何十台と空けといて、じゃあ年間で空いてる部分が多くて駐車場としての利益が上がらないと、そういったことだと多分ディベロッパーさんは支出しないというふうに考えます。

ただし、そういった場所を町営駐車場として一時駐車、駅への送迎に15分間無料にするとか、そういった取組をしている市町村はたくさんあります。一部

を町が借り上げて乗り入れのために無料で何分間かは車を入れて出ていってもらうのもただにしようね、それはその分は町が負担しますよとやっている、新幹線の駅なんかでは結構あります。ですので、そういったことも今はもう検討を始めています。全てを民に任せるのではなくて、町でも必要な台数、また皆さんの利用に応じた台数が確保できるような駐車場対策をしてみたいと思います。以上です。

6 番 井 上 それではですね、駐車場の関係はですね、理解をさせていただきましたというか、ぜひですね、そういった駐車場をですね、設置をするような計画をですね、示していただいてですね、まずは議会と町民がどういうふうな判断をされるのか。駅前で至近の距離にあるのであまり、徒歩でいいよという方もいらっしゃると思いますし、やはり買物を、買って家に持ち帰る際にはですね、やはりどうしても重たいので、自家用車で運ぶことが必要だという方もいらっしゃると思います。そういったものをですね、先ほどの様々な計画の中でですね、示していただきたいというふうに考えます。

最後になりますが、町長にですね、そういった新松田駅周辺整備事業・再開発事業に対するですね、議会・町民に示される計画のですね、来年度以降の予算計上について、どんなふうにお考えになるのかをお聞きして最後といたします。よろしく申し上げます。

町 長 必要に応じた予算を必ず計上します。ぜひお認め頂けるように、よろしく申し上げます。以上です。

6 番 井 上 ありがとうございます。そういったものが提示されればですね、議会としても十分理解、研究をして、議決の形の中でですね、審議をしていきたいと思っています。ありがとうございました。

議 長 以上で受付番号第3号、井上栄一君の一般質問を終わります。